

### 3. HP コンテンツ・リーフレットの更新

HP コンテンツ及びリーフレットに関して、目的及び配布先を明確にすべきとのご指摘が委員からあった。先ずこれらを明確にし、それに合ったコンテンツを検討することとした。なお、HP、リーフレットは、平成 17 年度～平成 19 年度の 3 年間をかけて検討する。

#### 3.1 HP コンテンツ

##### (1) サイト開設の目的

漂流・漂着ゴミの国際的削減対策に関する環境省の取り組みが紹介できるものとする。取り組みの紹介という目的は、環境省の他のサイトと共通するものである。

##### (2) 対象ユーザー

一般市民を対象とする。ただし、環境問題や海岸のゴミの問題に全く関心の無い人ではなく、ある程度関心を持っている人を想定している。

##### (3) ユーザーニーズの想定

以下のようなニーズを想定した。

- 現在、どのような環境問題があるのか知りたい。
- 海岸のゴミの問題に興味がある。環境省が、この問題にどのように取り組んでいるのか知りたい。
- 海岸にゴミが大量に漂着したニュースを見た。国(環境省)が、どのような対策を取っているのか知りたい。

##### (4) 開設時期

平成 17 年度～平成 19 年度の 3 年間の検討を加えた後、開設予定。

##### (5) TOP ページの場所

###### ■ 環境省 HP

— 地球環境・国際協力

— 海洋環境保全

— 漂流・漂着ゴミ

— 漂流・漂着ゴミのホームページ **【TOP ページ】**

## (6) コンテンツ

—漂流・漂着ゴミのホームページ [【TOP ページ】](#)

—漂流・漂着ゴミ問題とは

    | —漂流・漂着ゴミ問題とは

    | —ゴミの発生源

    | —漂流・漂着ゴミの国際性

    | —被害の実態

—日本海における調査結果

    | —調査地点

    | —漂着ゴミの写真

    | —漂着ゴミの実態調査結果

—漂流・漂着ゴミの移動経路予測（試験中）

    | —ゴミの漂流メカニズム

    | —流動モデル計算結果（試験中）

    | —漂流モデル計算結果（試験中）

—リンク

    | —国土交通省

    | —海上保安庁

    | —気象庁

    | —水産庁

    | —財団法人環日本海環境協力センター（NPEC）

    | —JEAN／クリーンアップ全国事務局

    | —社団法人海と渚環境美化推進機構（マリンプルー21）

## (7) HP の試作

HP の試作を、次頁以降に示す。

## 漂流・漂着ゴミのホームページ

TOP

[漂流・漂着ゴミ問題とは](#)

[日本海における調査結果](#)

[ゴミの移動経路予測\(試験中\)](#)

[リンク](#)

本来美しいはずの海岸に大量のゴミが漂着していることがあります。  
写真は2006年7月に撮影された長崎県対馬の越高海岸です。ペットボトル、発泡スチロール、プラスチック破片、流木、フロート等、様々なものが漂着しています。

日本の海岸に漂着するゴミは、1年間で約15万トンになります(平成12～17年度の漂着状況調査結果から、財団法人環日本海環境協力が試算)。そのうち、海外由来と推察される漂着物は、全国平均で、重量比で6%、個数比で2%です(平成17年度：財団法人環日本海環境協力センター調査)。

環境省は、この漂流・漂着ゴミの問題に取り組んでいます。

- [漂流・漂着ゴミ問題とは](#)
- [日本海における調査結果](#)
- [ゴミの移動経路予測\(試験中\)](#)
- [リンク](#)



▲ゴミの漂着状況  
(2006年7月、長崎県対馬 越高海岸)

このページに関するお問い合わせ先  
環境省地球環境局環境保全対策課  
〒100-6975 東京都千代田区霞が関1-2-2 TEL.03-3591-3351(代表)

## 漂流・漂着ゴミ問題とは

TOP [漂流・漂着ゴミ問題とは](#) [日本海における調査結果](#) [ゴミの移動経路予測\(試算中\)](#) [リンク](#)

- [漂流・漂着ゴミ問題とは](#)
- [ゴミの発生源](#)
- [漂流・漂着ゴミの国際性](#)
- [被害の実態](#)

### 漂流・漂着ゴミ問題とは

沿岸域や海岸には様々な種類のゴミが散乱しています。このゴミは海浜景観を損なうだけでなく、回収費用の増大、海洋生物への影響、船舶の航行障害などの問題が深刻化しています。

- **漂流・漂着ゴミの影響**
  - ・ 景観の悪化、それに伴う経済的損失(観光)
  - ・ 回収費用の増大
  - ・ 海生生物への影響(誤飲・誤食等)
  - ・ 船舶の航行障害(スクルー損傷) など

[▲このページの一番上へ](#)

### ゴミの発生源

#### ① 河川からの流出

海岸に漂着したゴミの多くは、陸上で発生したものと考えられます。大掛かりな不法投棄だけでなく、ポイ捨てや置き捨てなどによって河川敷に放置されたゴミは、大雨などで河川が増水すると押し流され、河口から流れ出て、海上を漂流します。海上を漂ったゴミは海岸に流れ着き、そこに打ち上げられます。

#### ② 海岸での発生

海岸で花火をしたり、バーベキューを楽しんだりした後、出たゴミを放置することが発生源となります。

#### ③ 海洋投棄

船上で発生したゴミを海に投棄すると、それが流れに乗って海岸に漂着することがあります。

#### ④ 再浮遊

海岸に漂着したゴミが、潮汐や風浪、波浪などによって再び漂流することがあります。漂着ごみの被害地域が二次的な発生源となります。

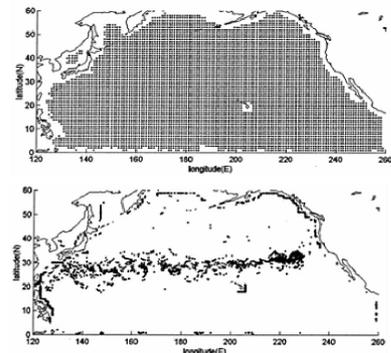


▲河川におけるゴミの状況

[▲このページの一番上へ](#)

### 漂流・漂着ゴミの国際性

遠く海を渡って外国からやって来たゴミもあります。逆に、日本から海を渡って外国に行ったゴミもあります。日本海・東シナ海沿岸には、日本を含む近隣諸国のゴミが漂着しています。また、太平洋の島々には日本のゴミがたくさん漂着しているという報告もあります。右の図は、太平洋上に均等に配置したゴミがどのように移動するかシミュレーションを行った結果です(久保田,2005)。(a)が初期分布、(b)が5年後の分布です。太平洋の中緯度にゴミが集積しており、他の場所で発生したゴミも中緯度域に運ばれてくることが分かります。海上に漂い出たゴミは国境を越えて流れて行きます。



▲太平洋におけるゴミのシミュレーション結果  
久保田雅久、海洋浮遊物の移動と蓄積、月刊海洋/号外 No.40.2005

[▲このページの一番上へ](#)

### 被害の実態

海岸に散乱するゴミには、ペットボトル、食品容器、ロープなど様々なゴミがあります。下の表は、日本海沿岸で回収され、数の多かったゴミの種類を示しています。これらのゴミが環境に様々な被害をもたらしています。

▼漂流ゴミの種類 日本海ワースト20

1 発泡スチロール破片(1cm <sup>2</sup> 以上)	11.紙片
2 硬質プラスチック破片	12.ふた・キャップ
3 プラスチックシートや袋の破片	13.ロープ・ひも
4 タバコの吸殻・フィルター	14.生活雑貨
5 発泡スチロール破片:小(1cm <sup>2</sup> 未満)	15.飲料用ガラスびん
6 花火	16.ガラス破片
7 飲料用プラボトル	17.漂白剤・洗剤類ボトル
8 食品の包装・容器	18.苗木ポット